

“統計という語なかなか馴染まれず”

統計は、社会、経済の指標として重要なものであるといわれ、また、実際に現代社会において各種行政施策の遂行のうゑに、企業合理化のために数多くの統計資料が活用されているけれど、どうもまだ社会一般にはよく理解されがたく、統計といえはむづかしいもの、約介なものであるとして親しまれにくい現状であろう。一口に統計とはと聞き直られるとちよつと困るが、その定義は学者によつても多少の表現の違いはあるようであるが、統計とは、一口にいえば統計集団の数量的表現であるとされている。最近わたくし達のくらしの中で新聞、テレビのニュースや教育番組などの中に統計ということばがよく使われ、数字を使った文章やグラフがよく目立つようになり統計はわたくし達の日常のくらしにも身近なものになつてきていることは事実であろう。

“集団の特性

数字としてまとめ”

統計集団の数量的表現が統計であるとすれば、その統計集団とは何か、一定の標識を有する同種個体の集合体をいうと統計辞典にある。一定の標識（目じるし）たとえば日本人という集団についてみると、日本人という点では共通であるが、この中には男女、年齢、職業、生活態度などさまざまな異なつた目じるしを持っている。このような性別、年齢別などの違いを表わしている目じるしのことを標識といつている。

“統計数学習などに悩まされ”

統計学となると、やはり一般の人から嫌われそうであるし、統計事務に従事している人達でもなかなか理解されにくい。統計学は統計方法を研究する学問だとされ、社会現象を対象として、その観察と解釈に重点をおく社会統計学と、分折手法

を取り扱う数理統計とがあり、さらに後者は平均とか標準偏差などの算出方法を取り扱う記述統計学と、確率論を基にして推定や検定などを研究する推測統計学に分かれている。このような学問が社会、経済の進展につれ各分野に研究、応用されて新しい時代の要請による統計がつぎつぎに作成されている。

“統計方法何をどうしてどうやつて”

集団の特徴や傾向を要約的にとらえて、比較考察をしたり、不確定な事象を関係づけたり、あるいは偶然によつて支配される現象の中で変動を分折、利用して一つの規則性を見いだすことを統計方法だとされている。他面統計学は統計方法を研究対象とする学問であるといわれる。くだいていえば統計方法はデータの分析を中心として、調査のやり方や表やグラフの作り方などの一部を含めていることになる。

“統計の集団的確にとらえ”

物の長さや重さをはかり、それを数量であらわすためには物指や秤が必要である。統計調査は、社会現象や自然現象などの集団について、その特性などを測定するための測定方法であり、これに用いる調査票は測定

用具である。一つの統計調査を行わんとするには、事前に綿密な企画、設計が必要になる。たとえば何を明らかにし、何を知りたいかという調査目的の確定。何を調査するかという調査事項の確定。誰れを調査するのかという調査範囲および対象。いつ調査するかという調査の期日。誰れが調査するのか。集団の全部を調査するのか一部でよいのか集計方法は手集計か、機械集計か。調査票は単記か連記か、自由回答法にするかそれとも回答選択法にするのか、結果表の表章はどのようにするか公表の時期はいつにするか等等このほかのもろもろのことについて十二分に検討して決定するわけである。しし以上のことは予算、経費等の制約があり、これによつて決定されるのはもちろんである。



②

日本人の食生活は米とミソ

昨年11月に全国10万世帯を対象に、調査した「食糧消費総合基本調査」の結果がこのほどまとまり、農林省から発表された。この調査は、外食、欠食、主食の内容、おかずなどについて調査したもので、その結果 ①朝食をとらない人が案外多い②主食は米が一番多いが外食では半分以下 ③肉を毎日料理している世帯は全国で16.1%本県で9.6%と少なく、魚は全国で29.9%本県で21.4%と、肉の2倍もある、ことなどが明らかになった。

◇ 主食の構成

主食の内容をみると、まず、ご飯が全体の78.5%(本県は83.5%)をしめて圧倒的に多く、ついでパンの8.9%(本県5.2%)めん類6.5%(本県6.6%)となっている。しかし、外食では米が47%と半分以下で、パン33.7%めん類6.9%となる。パン食が以外に多いのは学校給食が多いためである。

◇ 食事の回数

食事の回数は1日3回として、家庭内で食事をとる割合は84.8%(本県88.6%)、外食は10.6%(本県10.6%)で、欠食が1.8%(本県0.8%)あとは旅行その他で不在となっている。これを朝昼夕食別にみると、ご飯が最も多いのは夕食で86%(本県82.8%)、ついで朝食が81%(本県92.0%)昼食は68%(本県75.9%)と低い。逆にパン食の多いのは昼で16%(本県12.3%)朝食に9.9%(本県2.3%)でパン食にするのは朝昼が多い。

欠食は朝食が一番多く3.6%(本県1.4%)とくに都市部の非農家では5.1%(本県2.4%)が朝食をぬいている。

◇ 1人1食当り

ご飯を食べる場合「1人1食当り」をみると全国平均0.165リットル(本県0.170リットル)となる。0.18リットルが1合だから、それを少し下回るわけであるが、都市部非農家の場合は0.15リットル(本県0.177リットル)と低いのに対し、農村部の農家は0.182リットル(本県0.18リットル)に1食に1合以上たべる。

◇ 主な副食

ミソ汁を毎日つくる世帯は72.7%(本県91.6%)となっており、全国的にみて本県はかなりミソ汁の消費が大きい。これにくらべて、生肉を毎日食べる世帯は16.1%(本県9.6%)で、これは都会ほど多い傾向を示しているが本県では全国平均をかなり下回っている。また、魚を毎日料理した世帯は、全国29.9%(本県21.4%)となつて、これは水産県ほど高い率であるが、本県は、平均をやや下回っている。以上が今度農林省から第1次集計の結果として発表された概要であるが、本県の場合についてみると、米の消費は全国平均並、副食のうち、ミソ汁の利用は全国平均より大きくて、生肉、魚の利用が少なくなつており、このことはこん後の食生活改善の参考となろう。

「みそ汁」「生肉」「魚介」のひん度別の割合

		県計	市 郡 別		非農家・農家別		地 域 別			
			市 部	郡 部	非農家	農 家	県 北	鹿 行	県 南	県 西
み そ 汁	毎 日	91.6	91.6	91.5	90.2	93.3	92.6	94.7	92.9	86.3
	々	7.8	7.4	8.2	9.1	6.1	6.6	4.6	7.1	12.6
生 肉	毎 日	9.6	15.1	3.8	14.8	3.0	11.3	3.3	8.3	9.6
	々	73.1	72.1	74.0	75.7	69.8	71.7	72.6	76.9	69.9
魚 介	毎 日	21.4	25.6	16.9	26.8	14.5	24.7	29.6	17.4	14.8
	々	74.7	70.3	79.3	70.2	80.3	72.1	67.8	78.8	78.7